

	発行者の略号	東書	学図
	書名	新編 新しい科学	中学校 科学
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	①「ビジュアル紙面から促される学習意欲」、「誰もができる探究」、「紙×デジタル＝学力向上」を工夫の中心とした編集がされている。	①必要なことを端的に学習する構成となっており、生徒の実情に合わせて「探究にしっかりと取り組む」や「定着に時間をかける」等の工夫ができるように編集されている。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①単元のはじめに大きな写真のページがあり、その単元に関係することを喚起するものになっている。また、「スタート動画」として二次元コードが用意されており、教員が単元の導入で話しているような内容を1分程度の動画で視聴することができ、視覚的にイメージをしやすくなっている。 ②探究の過程がつかみやすいレイアウトや、学びのフローチャートにより「今、どの活動を行っているのか」がつかみやすくなっている。 ③単元の最後に、「社会につながる科学」のコーナーがあり、学習した内容が社会とつながっていることを知る工夫がされている。	①1時間ごとの課題に対して、どのような「見方」「考え方」をはたらかせていくのかが示されている。また、各単元で身につけたい資質・能力が、「Can-Do List」としてまとめられている。 ②仮説・実験計画の内容では、イラストの人物から多様な考え方が提示されている。 ③単元のはじめと最後に「学びのあしあと」があり、生徒が自分の成長を認識することで進んで学ぶ意欲を育めるよう構成されている。また、「理路整然」のコーナーや巻末資料には、学習した内容と日常生活や社会との関連を学べる工夫がされている。
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	適切である。	適切である。
	（ウ）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①章のはじめに「レッツスタート！」があり、生徒の身近な題材から単元の内容を考えていくことや、「Before&After」で単元内容の問いかけがあり、自分の考えの変容を知ることができる。 ②他教科等での学習内容と関連があるところは、「○○で学ぶこと」などとしており、その教科のデジタル教科書ページを参照できる。また、「道徳教育との関連」として、自然への畏怖や生命倫理などが適所で取り上げられている。 ③話し合いが必要な場面には人のイラストで話し合っている例が示されている。また、「学びを生活や社会に広げよう」では、日常生活の話題で生徒が意見を出しやすい題材が用意されている。 ④「たたら製鉄」など、伝統的な技法にも触れている。 ⑤「もっと野外活動を試みよう」や「ジオパークへ行こう」など、地域での学びにつなげている。 ⑥「これまでに学んだこと」での既習事項の確認や、上位学年や高等学校へつながる内容を「発展的な学習内容」として取り上げている。 ⑦デジタルコンテンツを充実させ、月の満ち欠けシミュレーターなどの独自コンテンツもある。 ⑧イラストや写真、会話文を用いて学習内容をつかみやすくしている。	①単元の最初に単元で学ぶ内容に関する写真が載っており、そこからどのようなことが考えられるか自ら問いを立てることができる工夫がされている。 ②V字谷、扇状地、三角州など社会科の地理的分野で出てくる内容が掲載されている。 ③「探究」のページでは対話的な文章表現があり、対話を促す工夫がされている。また、実験ページ内の「コラム」での疑問の提示で参考になるようになっている。 ④日本での恐竜化石の採掘の歴史や、これまでの日本の科学の歴史が掲載されている。 ⑤補充資料の中に、生活との関連を扱っている。 ⑥「ふりかえろう・つなげよう」で既習事項の確認を、「発展」で高校内容との関連に触れている。 ⑦教科書ページの端に二次元コードが用意されており、そのページをデジタル教科書のように活用でき、ふりがなや多言語にも対応している。 ⑧すべての教科書紙面がウェブページにあり、復習として下位学年にも遷移できるようになっている。
（イ）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①適切である。 ②ダイナミックな写真を多く使い、単元の主題や学習内容がつかみやすくしている。また、「1見開き1時間構成」を目安とし、学習内容のまとまりがわかりやすく見通しが立てやすい。 ③適切である。	①適切である。 ②従来のカラーユニバーサルデザインに加え、紙面デザインをひかえめにし、教科書本文と図を見分けやすくするなど体裁が工夫されている。 ③適切である。	
（イ） 教科・種目別の観点	①観察、実験などは、3年間を通じて、科学的に探究する力の育成が図られるような工夫や配慮がなされているか。	①「問題発見→課題→仮説→構想→実験観察→分析・解釈・検討・改善→結論→振り返り・活用」という学習の流れが節の構成となっている。単元全体では「Before&After」で自分の考えが変容していくことを捉えられるつくりになっている。	①「探究」のページでは多くの実験や観察が掲載されており、実験・観察を通して各単元の内容が身につくように工夫されている。3年間を通して探究の流れに沿って実験や観察を行うことで、科学的に探究する力の育成を図っている。
	②観察、実験などは、日常生活や社会とのかかわりの中で、生徒が理科の有用性を実感したり、自らの力で知識を獲得したり、また、それらを表現したりして、理解を深めて体系化していくような工夫や配慮がなされているか。	②今日的な諸課題への対応として、「日常生活や社会とのつながり」、「自然災害や防災・減災教育への取組」、「STEAM教育」、「SDGsの実現に向けた取組」などを、3学年を通して扱うようにしている。また、「まちなか科学」のコーナーでは、学習した内容が生活の中でどう関わっているかを学ぶ機会になっている。	②さまざまな立場の人たちが、「SDGs」や「脱炭素社会」、「防災・減災」などに取り組んでいることを扱っている。また、その中にキャリア教育として職業との関連を想起させる資料を掲載している。
	③原理や法則の理解を深めるためのものづくりや、継続的な観察や季節を変えての定点観測など、体験的な学習活動の充実が図られるような工夫や配慮がなされているか。	③「おてがる科学」のコーナーでは、「リニアモーターをつくってみよう」など、学習内容が深められるような工夫がされている。	③2学年「気象」、3学年「天文」の単元では、「継続観察」と明示された学習活動が設定されており、計画的な観察・観測を粘り強く行う姿勢を育てる配慮がなされている。

	発行者の略号	教出	啓林館
	書名	自然の探究 中学理科	未来へひろがるサイエンス
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	①「探究する力」、「確かな学力」、「デジタルの学び」を特色の柱とし、探究のサイクルを中心に授業を構成し、要点の整理や基本問題で既習事項の定着、デジタルコンテンツでの理解の深まりをめざしている。	①だれもが探究的に学べ、探究を通して学ぶ構成としている。また、多様な学びが実現できるようデジタルコンテンツも強化されている。章の導入では、「はてなスイッチ」という動画で単元の内容をイメージしやすくなっている。また、教科書全体でSDGsの教材を提供し、問題意識をもつことができるよう工夫している。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①単元のはじめに大きな写真のページがあり、興味を引くものになっている。また、身のまわりのことから「学んでいくこと」として単元のイメージがつきやすくなっている。 ②疑問をもとにした探究の過程が強調されており、観察や実験では「探究してみよう」の内容がつかみやすくレイアウトされている。 ③「ハローサイエンス」では、SDGsや生活との関連が深い題材を用意し、社会とのつながりを考える内容となっている。	1章導入の写真は「不思議な現象」や「興味深い現象」のものが掲載されており、問いかけからスムーズに学習に入れるよう工夫されている。 ②「探Q実験」、「探Qシート」、「みんなで探Qクラブ」というページを設け、考える力の育成を図っている。 ③「深めるラボ」のような読み物を掲載し、学びを人生や社会に生かせる工夫がされている。
	（4）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	適切である。	適切である。
	（ウ）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①生徒キャラクターが理科的な見方・考え方を働かせることができるように、展開に沿った適切な発言や素朴概念を織り込んだ発言をしている。 ②理科とかかわりの深い他教科の内容が紹介されている。 ③「話し合おう」というコーナーで、話題が提示されており、身のまわりの現象とかかわりを考えられるようになっている。 ④たたら製鉄や花火など、日本にかかわる技法が紹介されている。 ⑤「やってみよう」では身のまわりのものを使って気体を発生させてみるなどの体験的な実験を扱っている。 ⑥「思い出そう」では、小学校での学習内容を扱っている。また、「発展」として高校内容へのつながりを紹介している。 ⑦「まなびリンク」として二次元コードが用意されており、器具の使い方や資料動画、3Dモデル、Web図鑑等のデジタルコンテンツが用意されている。 ⑧探究の過程を統一感のあるマークで示し、上から下へ読めるシンプルなレイアウトになっている。	①話し合いの進め方や思考ツールが紹介されており、主体的・対話的で深い学びにつながる構成になっている。 ②サイエンス資料や他教科との関連を多く取り入れ、他教科との関連をはかっている。 ③自分の考えをあらかじめ書いてから話し合うための「仮説、根拠」について記入する欄があり、また、対話の柱になるポイントを「考えてみよう」の項目で示しており、言語能力の育成に工夫がされている。 ④大地の恵みと災害では、日本各地でプレートの動きによる恵みと災害が紹介されていて、日本固有の大地の変化がわかるよう工夫されている。 ⑤「実習」などのページでは生徒自身が実際に活動することで学びにつながる工夫がされている。 ⑥章の導入で既習事項を振り返る「つながる学び」のコーナーがあり、デジタルコンテンツを通して復習することができる。また理解が深まるよう高等学校の内容も収録している（3年間で合計70か所）。 ⑦実験・実習の場面で生徒が主体的に操作できるコンテンツがあり、実験器具の使い方を含め自分のペースで確認できる。また、オシロスコープをデジタルコンテンツ上で使用できるなどの工夫がある。 ⑧1つの節が「課題の把握」、「課題の追究」、「課題の解決」という流れになっており、統一感のある構成になっている。
（イ）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①適切である。 ②本文の文字サイズが小学校6年生の教科書から少しずつ小さくなるように調整してある。また、学習すべき内容や活動を維持したまま、総ページ数と重量を軽減している。 ③適切である。	①適切である。 ②二次元コードからデジタル教材にリンクしており、自主的な学習や家庭での学習などを含め、意欲を高める工夫がしてある。 ③適切である。	
（イ） 教科・種目別の観点	①観察、実験などは、3年間を通じて、科学的に探究する力の育成が図られるような工夫や配慮がなされているか。	①「疑問から探究してみよう」により、各単元で探究の進め方にそった流れで学習できるように設定されている。また、「考えよう」、「話し合おう」の場面も設定し、主体的・対話的な活動になるよう構成されている。	①生徒が主体的に探究する「探Q実験」等が設定されており、仮説や計画などを自分で考えていくことで力を育てる工夫がされている。また、「学ぶ前にトライ」および「学んだあとにトライ」が用意されており、単元を通じた自分の成長を実感できる構成になっている。
	②観察、実験などは、日常生活や社会とのかかわりの中で、生徒が理科の有用性を実感したり、自らの力で知識を獲得したり、また、それらを表現したりして、理解を深めて体系化していくような工夫や配慮がなされているか。	②「学習前の私」で、日常生活に何気なくやっていることは「なぜ」と疑問をもてるような投げかけがある。また、学習後には「学習後の私」という振り返りの項目があり、単元を通して成長した自分を確認できる工夫がある。	②節ごとに「Action 活用してみよう」が配置されており、学習課題を解決したことで得た知識・技能を活用する場面がある。また、節末には理科の有用性がわかるコラムが用意されており、学習したことが、日常使用されている道具や、自然現象との結びつきを実感できるような工夫がある。
	③原理や法則の理解を深めるためのものづくりや、継続的な観察や季節を変えての定点観測など、体験的な学習活動の充実が図られるような工夫や配慮がなされているか。	③生徒自身で、自主的に体験的な学習活動の充実が図れる「やってみよう」や「チャレンジ」があり、学習した内容をいかせるよう工夫されている。	③巻末の「サイエンス資料」では、寒天を使ったボーリング調査を体験的に学べる実験などの例が提示されて継続的に観察・実験ができる題材が提示されている。